

アドバンス・ケア・プランニング推進に関する研究

研究分野: 老年看護学 地域福祉

キーワード: 老年看護・エンディングノート・終活・介護予防

貢献できるSDGsの区分:



看護栄養学部 看護学科 准教授 馬場保子

教員情報URL <https://sun.ac.jp/baba-yasu/>

研究概要

高齢者は終活に対して関心が高い傾向にありますが、自分の大切にしたい終末期への思いを、なかなか家族に伝えることができていません。人生の最期を満足して迎えるためには、元気なうちに、これからの人生を考え家族や医療者と話し合う人生会議(アドバンス・ケア・プランニング)への取り組みが必要です。高齢者が人生の最期を満足して迎えられるよう、ACPの普及と地域ごとの取り組みを分析することを目的とした研究に取り組んでいます。

2014年から、大村市の「人生ノート(エンディングノート)検討委員会」のメンバーとして人生会議の推進に取り組んできました。大村市では介護予防・生きがいづくりの一環として、「人生ノート」を活用して人生会議のきっかけづくりに役立てています。2023年度は、全国1741自治体の終活サポート事業の実態調査を行いました。回答があった570自治体のうち、48.3%でエンディングノートが導入されており、2012年頃から普及が進んでいることが明らかになりました。2024年度は、新上五島町の医療介護連携会と協力し、エンディングノートの改定版の作成と、高齢者ミニデイや小学生の保護者を対象に人生会議の講話を行いました。小値賀町では住民向け終活セミナーを実施し人生会議の普及に努めています。さらに離島でのアドバンス・ケア・プランニングの調査を進めています。

産学連携の可能性(アピールポイント)

人生の終末期において大切にしたい思いを叶えることができるように、思いを語り合う仕組みづくりが必要です。終活について、地域在住高齢者を対象にした講座や、医療・介護・福祉従事者に対する教育支援が可能です。

外部との連携実績等

①外部資金

- ・科研費(基盤C), 離島高齢者の相互扶助とアドバンス・ケア・プランニング, 共同研究者(R6年度～)
- ・科研費(基盤C), 離島・僻地に暮らす住民のアドバンス・ケア・プランニング推進の地域づくり, 研究代表者(R2年度～R5年度)

②大村市「人生ノート検討委員会」委員(平成26年～現在に至る)

③研修講師 (アドバンス・ケア・プランニング、終活に関する内容)

- ・大村市 市民公開講座(2021年、2025年) 講師
- ・介護予防教室・医師会研修・介護支援専門員研修 講師
- ・離島就業看護職研修 長崎県看護キャリア支援センター事業 講師
- ・新上五島町 小学校PTA「もしもの話をしてみよう」 講師
- ・小値賀町終活セミナー 講師 など